

## インターバンクの声（2015年2月2日）

1月の最終営業日だった30日の朝方ニューヨーク市場で発表された2014年米第4四半期GDP速報値は、市場予想を下回るとともに前期から大幅に減速する内容だった。米GDP全体の約70%を占める個人支出が2006年第1四半期以来の大幅な伸びを見せたことが、為替市場での極端なドル売りを躊躇させた部分もあったようだが、ユーロがロシアやギリシャの経済情勢に対する懸念から売り先行になっていたことに助けられた格好だ。アマゾン・ドット・コムやシェブロンなどの米企業決算が好調だったにも関わらず株価が下落したり、米債券利回りの低下が大幅だったことが、GDP結果への失望の大きさを示していたのかも知れない。今晚（2日）に発表される12月の個人消費支出の内容から、米国内の個人消費と企業の設備投資などとのギャップがより広がっていると確認されれば、連邦準備制度理事会（FRB）による利上げがさらに慎重になるとの見方が強まる可能性もある。目先、ドルは対円で少し買い難くなっている気がする。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。